



**2月定例会
県議**

**1兆456億円余の新年度予算案
新たな「総合5か年計画」などを可決**

2月15日に開会した2月定例会県議会は、3月10日までの本会議で、総額1兆456億円余の令和5年度一般会計予算案、新たな総合5か年計画の策定など、追加の補正予算案を含め知事提出の58議案を審議し、いずれも原案どおり可決・同意しました。

代表質問では、寺沢広報企画委員長が次期総合5か年計画を中心に、また、一般質問では我が会派から9名が登壇し、知事はじめ県当局の姿勢や考え方について議論を重ねました。

定例会に先立ち、国省庁とオンラインで結んでの学習会（2日間）や県庁各部署とのヒヤリング（4日間）を実施し、課題を明確にした上で質疑に臨みました。

寺沢広報企画委員長が代表質問



め、知事個人の思いに、あまり引きずられてはいけな

【寺沢議員】変化が急激で先を見通すことが難しい時代の中にあつて、5年という長期計画で良いのか。

【知事】複雑化する課題に腰を据えて進めるための期間が必要であり、頻回での計画改訂は職員への負担となるなど総合的に勘案した上で5年とした。

【寺沢議員】今回、知事選直後の計画策定となり、公約など思いを反映しやすいタイミングと感ずるが所見は。

【知事】県の総合計画のた

【寺沢議員】総合5か年計画は、予算をはじめ各分野の行政計画の方向付けに影響を与えるものである。本来であれば、計画を先に策定し、それを踏まえた上で、予算や行政計画を議論すべきと考えるが、早く策定することはできないのか。

【知事】先に策定か一体で策定か、どちらの考え方もあると思う。現状の総合計画と行政計画、予算

【寺沢議員】今計画の目標を達成した際の、長野県はどの様な姿になっているのか、知事が描く長野県の姿は。

【知事】計画の基本目標である「確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る」という所に、私の思いがかなり詰まっている。SDGsにおいて、社会、経済、環境の三つの統合的発展と言われているが、長野県もバランスが取れた発展をしていきたいと思っている。大きな社会変革をしっかりと行う中で、県民の皆様がしあわせを実感できる、そして、ゆたかな社会に



当初予算のポイント

～確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る～

- 1 持続可能で安定した暮らしを守る
 - 持続可能な脱炭素社会の創出
 - 災害に強い県づくりの推進
 - 社会的なインフラの維持・発展
 - 県民生活の安全確保 等
- 2 創造的で強靱な産業の発展を支援する
 - 成長産業の創出・振興、稼ぐ力とブランド力の向上
 - 産業人材の育成・確保
 - 地域内経済循環の推進 等
- 3 快適でゆとりのある社会生活を創造する
 - デジタルの力を活用した便利で快適な暮らしの実現
 - 地域活力の維持・発展
 - 移住・交流・多様なかわりの展開 等
- 4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる
 - 若者の結婚・出産・子育ての希望実現
 - 年齢、性別、国籍、障がいの有無や経済状況等が障壁とならない公正な社会の創出 等
- 5 誰もが主体的に学ぶことができる環境をつくる
 - 一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進
 - 高等教育の振興による地域の中核となる人材の育成 等

勇退2氏最後の「一般質問」



小島康晴代表

4期16年間に、県政を身近にすることと県内の地域間格差の是正を中心に取り組んできました。これを踏まえ、地域振興局の名称の再考、職員の病

【知事】総合5か年計画が「画に描いた餅」になってしまいます。知事の発想の転換を強く求めました。



熊谷元尋副政策審議会長

抱える職員数の少なさ、水道事業の広域化、部活動の地域移行、国や県からの各種調査への負担など、過去12年間の首長経験も踏まえながら、一般質問にて取り上げてきました。また、この地域特有のリニア中央新幹線計画や運転免許センターの設置、飯田創造館の閉館等の課題に対しても、県の支援策を求めました。1期でしたが、充実した4年間で

これから先も、小規模町村に寄り添った県政であることを願っています。